

ひきセン通信



もくじ

- 1 今現在と執筆遍歴、または書くことの効用
(こるじゃ)
- 2 ひきこもりのち、日焼け
(M男)

ひきセン通信は新潟市ひきこもり相談支援センターの利用者さんの声で作っていく不定期刊行物です。

発行 新潟市ひきこもり相談支援センター
TEL 025-278-8585 (相談・予約専用ダイヤル)

今現在と執筆遍歴、または書くことの効用

二十何年の人生を暮らしてきた私ですが、思えば学生時代の頃から、「書くこと」を楽しみにし、あるいは目標にするか、そうでなければやっつける対象にしていたように思います。自分の中に埋め育てる趣味として、いつもそこにあったようです。悲しい時も楽しい時も、おおよそ最後はここに帰ってきました。

現在の自己ステータスとしては、大学卒業後、単発のアルバイトをぼつぼつとやった末に体調不良に見まわれ、それを切っ掛けにして人生や思考から「労働」の概念がすっぽ抜けてしまい、それからは病院と万代市民センターと家を往復する、【社会的ひきこもり】とでも言える存在になりました。セミナーに参加してもバイトはせず、読書会に出ても就職につながらないという、どっちつかずの中途半端な状態でした。とは言え、そうして体調不良に苦しめられ、自身の社会的な地位に落胆している間も、何かしらの形で書く事だけは続けてきました。これほど長続きする趣味があるとは、と自分でもたまに驚きます。

書く媒体も、ある時は小説であったり、もしくは日記に綴ったりと様々です。小説の感想も書きましたし、歌詞を書いた事もありました。エッセイの経験はあまりありません。今ではほぼ毎朝、いらぬノートに三頁ほど、自身の思っている事全て（文字通り全部ですね）をぶつけています。並行して、それなりの小説を書こうと机に向かってしまいます。とにかく書く事は人生の肥やしになると思い――疲れている時や夜中にはその考えも自信がなくなりますが――何かを読めば何かを書くよう心がけてきました。これと言った根拠はありませんが、おそらく自分の脳内で、この行動は良い作用を起こしているのだと思います。

そもそも書き始めた発端が、人が書いたネット小説を見てショックを受け「このままでは死んでしまう。死ぬ前に自分も書かなければ」という気持ちでタイピングを始めるという、今思い返してもよく分からない感情でした。おそらくきっかけは何でも良かったのでしょう。とにかく動き始めた事が、結果的に自分を導いてくれたのだと思います。書く事はいろんな効用を私にもたらしてくれました。鬱々している時にはそれを解す作用、澁刺としている時には計画を立てさせ、あるいはエネルギーに溢れた時はそれを小説に向けさせてくれました。未だに自分でもよく分からない経緯で「労働」の概念がすっぽ抜けた私にとって、書く事は創造のシステムに自らを組み込む価値ある事象であり、大いなる現実逃避でもありつつ、自身を育ててくれる良き存在でした。ある意味では相方に近いのかも知れません。これがいつまで続けられるかは分かりませんが、あと何十年かは付き合っていくのかな、とも思います。

そして今回は、ひきセン通信という物を知り、こちらで執筆できる機会も頂きました。そうして自分の執筆遍歴について、大雑把に振り返ってみました。あんまりひきこもりとは関係ないかも知れませんがご容赦を。おそらくこれを通じて、ご覧になった方には何かしらの世界が広がるかもしれませんし、私自身にも何か降りが積もっていくことでしょう。それが果たして「労働」などの社会参画にまで繋がるかどうかは分かりませんが、何らかの形でこれは社会に干渉し、作用を巻き起こしてくれる事でしょう。それはきっと、長い目で見れば善い事だろうと思います。そうした事に感謝しつつ筆を置かせていただきます。(こるじゃ)

ひきこもりのち、日焼け



今年の1月上旬から、なんとなく引きこもりがちになっていた。
かろうじて通院はしていたものの、それ以外は布団の中で過ごしていた。

3月の中旬、遠方にいる友人からメールが届いた。
「そちらの風景の写真を送って」
私は、しぶしぶ外に出て近所で空や花の写真を撮った。

3月の下旬、ネットサーフィンをしていて、おもしろいブログに出くわした。
ポツンとひとつだけ落ちていた落し物の手袋(片手袋)について語られていた。

たしかにそんなもの見かけるよな、と私は思った。
近所を散策してみた。
散策の初日、畑や水路脇で4つの片手袋を見つけた。

徒歩では、範囲に限界がある。
自転車で、行動範囲を広げようと思った。
ホコリをかぶっていた自転車を磨いた。
そして、自転車で出かけた。

療養中の身である。
散歩や自転車こぎをするよう、リハビリの先生から言われていた。
時間はいくらでもある。
暇にまかせて自転車をこぎつづけた。

畑、田んぼ、道路の真ん中、ガードレールの下、路肩、歩道、駐車場、水路の脇、植え込み、フェンス、川の底、施設の忘れ物コーナーなどなど...
持ち主が落とした物もあれば、それを拾い上げて目立つ場所に置いている物もあった。
いま現在(2014年5月18日朝)で、240枚以上の手袋に出会えた。

顔や腕はすっかり日焼けをした。
万代市民会館の忘れ物コーナーもぜひ見たい。

追伸
街には、観察の対象となるものがたくさんある。
落し物のほかに、マンホールの蓋、いわゆる‘犬のフンをお持ち帰りください’看板、犬のオシッコの痕跡・ウンチ、ブロック塀の模様、川の浮遊物、欠けたお茶碗、消火栓、測定の杭・鋸、道路に描かれた工事用の記号、短いガードレール探しなど枚挙にいとまがない。
ひょっとすると超芸術‘トマソン’に出会えるかも。
超芸術‘トマソン’については、wiki先生に聞いてみて。

では失礼します

(M男)